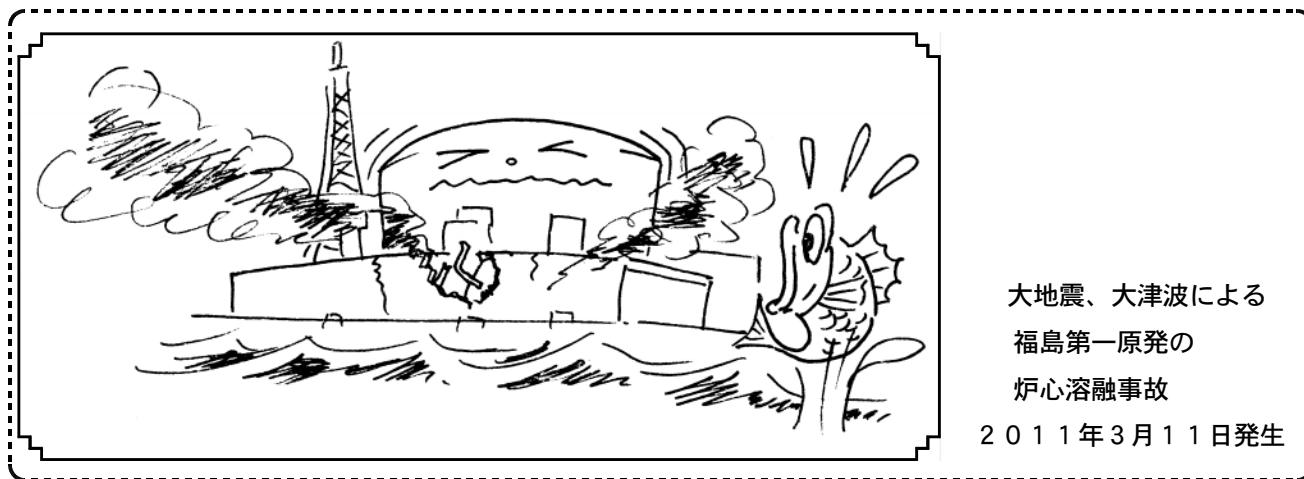


いつ ヒバクさせられるか ビクビク生活はイヤ!

すべての原発を止めよう!



放射能汚染が広がっている。

福島第一原発敷地内の土から
超猛毒のプルトニウムが検出された。

その濃度は、現在すでに、大気圏内
核実験によるフォールアウトのレベルに達している。

本来は、原子炉の燃料棒の中に留まり、
環境へ出て来てはならない放射性物質である。

配管・機器の破損部や弁から放射能汚染水が
漏れ出している。

それだけに留まらず、圧力容器の底が破損し、
放射能汚染水が圧力容器から直接漏れだしている
可能性が極めて高い。

破壊された原子炉建屋から、
水蒸気・水素ガス・放射性希ガス
揮発性の放射性ヨウ素やセシウムなどが
大気や海へ放出され、これらに混じって、
プルトニウムなど不揮発性の放射能の
一部も放出されている。



(1954年3月1日、水爆実験 第5福竜丸ヒバク)
「雨が体に当たらないように」親に言われる



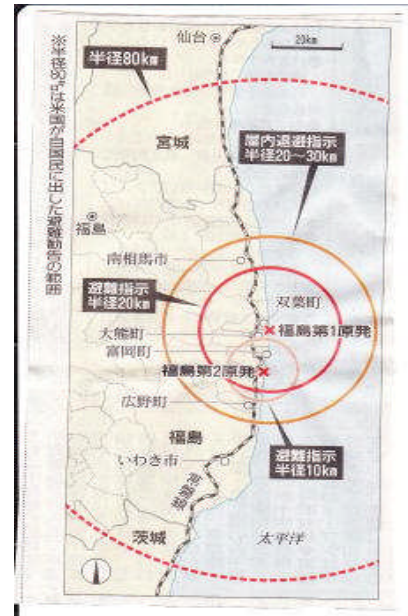
(福島第一原発3号炉 水素爆発3月14日)

原発重大事故は収束していない。

注入された海水など約2万トンが高濃度の放射能汚染水となってタービン建屋の地下や屋外のトレンチ内に溜まっている。

これがすさまじい高放射線環境を作りだし、電源復旧工事を妨げ、炉心冷却システムの機能回復を困難にしている。

福島第一原発1～3号炉の炉心は、その上部が溶融し、1号炉では一部が圧力容器の底へ落下した。
(20キロ圏内は避難 毎日新聞)



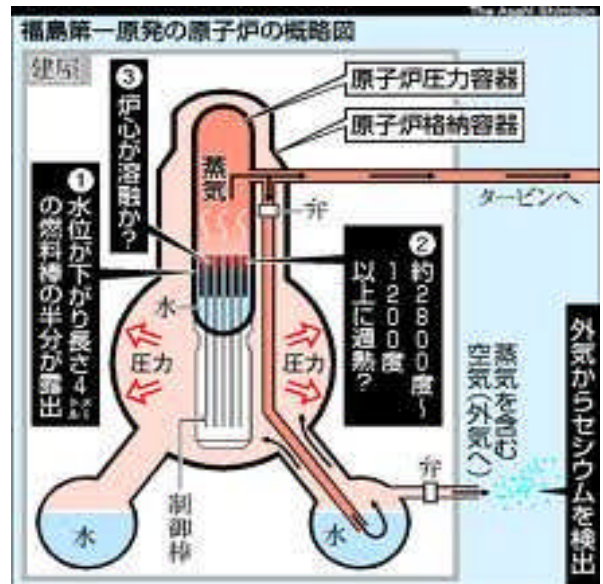
圧力容器を熱し、蝕み始めている。

2・3号炉でもその可能性が高い。

注入されたホウ酸水の濃度が薄まり、より多くの溶融燃料が落下・集合すれば、再臨界爆発事故を起こす危険がある。

溶融燃料が一層多く落下すれば、圧力容器の底を融かし、格納容器内へ落下する。

そこで水蒸気爆発を起こし、格納容器を吹き飛ばす可能性すら否定できない。



(毎日新聞 解説記事より)

「福島第一原発重大事故は チェルノブイリ事故のような放射能災害には至らない」と、断言できる者は、現時点では誰一人としていない。

放射能汚染は一体どこまで深刻化し、広がるのだろうか。そして、いつまで続くのだろうか・・・。

電力会社や政治家・官僚・御用学者たちは、「想定外の大地震、大津波だった。」と、責任回避にやっきとなっている。



ことの重大さをどれだけ認識できているのか。

地震・津波による原発重大事故の警告を無視し続け、今なお正当化しようとする者は、現実に関った重大事故の恐怖を真正面から直視すべきである。

私達を危険な道に押しとどめ
引きずり込もうとするのはもうやめてほしい。
がまんすることはない。

「真実を知りたい、深刻さを知りたい」と、
唇をふるわせて怒るべきときだ！



(チェルノブイリ事故後、ベラルーシの子の絵)

ヒバクにおびえる日々を暮らすなんて まっぴらだと、闘い続けた30年 ---
このような悲惨な事態を防ごうと闘ってきたのに・・・。

あーあ・・・、絶望と、憤りが頭の中を駆け回り、手足の先々までふるえをよぶ。
夢の中で、「これは現実ではないのだ！」と叫び、悪夢にうなされる。

原発推進をかかげた国、政権を担ってきた自民党や
民主党はどんな責任をとるつもりなのだろうか。

メーカーや電力会社は、どんな責任を・・・。

ある電力会社は、恥ずかしげもなく、
「日本は原子力でしか生きることができない社会だ」と断じ、
「それでも原発は必要だ」と言い張る。

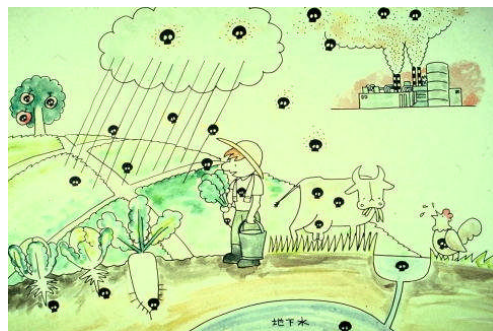
これが公益事業を担う企業の声であるとは
--- なんともはや、空しさが広がる。

地域のエネルギーを支え、生活を守るという企業の姿は浮かんでこない。
まったくゆるしがたい。

「大型の原子力発電所をどんどん建て、
電気エネルギーを大量に消費できる社会がすばらしい」と、
言ってきた推進者たちは、どんな反省を口にしようというのであろうか。

「原発」という怪物を解き放ったため、
今、福島第一原発では、炉心溶融事故から
メルトダウンによる水蒸気爆発の危機に
直面している。

事態を収束させるためには
労働者の高線量被爆が避けられない。
避難生活を続ける津波被災者の



(紙芝居ーりさちゃんのパパより)



(紙芝居ーりさちゃんのパパより)

頭上に放射能が降り注ぎ始めている。

「その責任の一端は、原発を止められなかった

私たち1人ひとりにもあるのでは」と、ふっと思い・・

そして、今こそ「脱原発に向かって動き出すべきとき」と、叫ぶ。

私たちは、福島第一原発の重大事故を

目の前にしてなお、黙って見過ごすことができるのだろうか

--- 「電気は必要、だから原子力に頼ろう」という言葉を。

本当に、原発重大事故による放射能災害を容認できるのだろうか。

危険なプルトニウムや「死の灰」を何百年、何千年と

管理し続けることを子孫に強要できるのだろうか。

まず、すべての原発を止めよう。

運転・建設・計画の全面停止を求めよう。

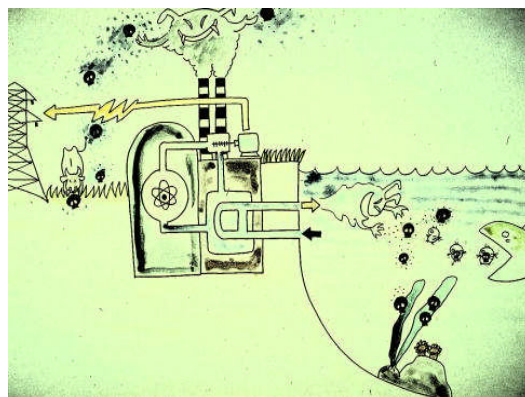
耐震設計と耐震評価を根本的に見直し、

耐震性のない原発を廃炉にしよう。

プルサーマル計画を中止させ、

高速増殖炉「もんじゅ」や

六カ所再処理工場の閉鎖を求めよう。



(紙芝居ー リサちゃんのパパより)

原子力関連予算を大幅に削減させ、

津波災害復興に使わせよう。

そして、知恵を出し合い、脱原発社会へ突き進もう。

地域で生きづく再生可能な環境に優しいエネルギー政策を出し合おう。

都市や物流のあり方を考えなおし、都市・交通計画を見直そう。

オール電化ではなく、化石燃料エネルギーと電力を適切にバランスさせ、

再生可能で再循環できる自然エネルギーを活用しよう。

その中で、新たな雇用を創出していくなど、など。

みんなで知恵を出し合い、原子力に頼らない社会、夢の語り合える社会をつくろう。

できないことはない。

そして、それは、決して不便な社会ではない。

安心して人間が生きていける社会。

生きていることを共有しあい、協力しあえる豊かな生活!

今まさに立ち上がるべき時だ。

さあ、 さあ、 さあ

(若狭ネット 久保)